

京都大学工学部建築学科 学生諸君へ

日本技術者教育認定基準 (JABEE 基準) と京都大学工学部建築学科の対応

技術者教育の質的同等性を国境を越えて相互に承認し合う協定、いわゆるワシントンアコードが1989年に締結され、英語圏の諸国では、単位の相互認定や、卒業後の技術者資格の相互承認など、教育や職業資格を相互に承認し合う動きが広がっています。日本の大学の工学教育においても世界の動向に適切に対応するために、次のような目標と具体的方法の開示が求められます。

- ①工学教育のあるべき目標
- ②目標達成のための実効性のある教育体制と具体的なカリキュラム
- ③教育体制の継続的改善の方法

1999年9月、技術者教育の国際性を確保することを目的とする日本技術者教育認定機構 (JABEE) が設立されました。この機関は、技術者が相互に審査しあい、相互に向上を図る新たな組織であり、日本技術者教育認定基準 (JABEE 基準) に従って、それぞれのプログラム (学科) を定期的に審査し、評価することによって、各プログラムの継続的な改善を指向するものです。

京都大学工学部建築学科は、1920年の創立以来、建築に関わる学術・技術・芸術の教育・研究において輝かしい成果を挙げるとともに、錚々たる先達たちを輩出してきました。わが建築学科は、80余年にわたる良き伝統を継承しつつ、同時に JABEE 審査等に見られる近年の動向に適確に対応しうる体制を整えることが重要であると考えます。

京都大学工学部建築学科は、21世紀における建築界のリーダーたる素養をもつ専門家を養成することを目的として、「京都大学建築学科の学習・教育目標」(別資料) を新たに制定し、この目標の達成と教育体制の継続的な改善に取り組むことをここに表明します。

学生諸君においても、伝統ある京都大学工学部建築学科の一員として、この基本方針に対する理解を期待するものです。

2003年4月1日
京都大学工学部建築学科
学科長 前田 忠直